

自然環境調査結果の概要について

出雲市では、市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生生物を対象とした調査を継続的に実施しています。

令和元年度は、出雲市の南東部に位置する佐田地域、斐川地域、出雲地域の河川について、生息する水生動物と水生植物の調査を行いましたので、その概要を報告します。

○調査の対象

市内の生物多様性を知るため、確認された生物をできるだけ記録し、調査しています。

この中には、レッドデータブック（注1）の掲載種のほか、環境省の生態系被害防止外来種リストに掲載されている外来生物（注2）が含まれています。

○調査地域

佐田地域、斐川地域、出雲地域の12の河川から25地点を選び、調査を行いました。



市内の調査河川概略

○確認された生物

令和元年度の調査で記録された生物の全種数は、109種です。その内訳は、爬虫類2種、両生類5種、魚類5種、巻貝3種、ヒル類1種、ウズムシ類1種、甲殻類7種、昆虫類83種、水草2種です。

○水生動物

河川で見られた希少種としては、島根県版レッドデータブックや環境省のレッドデータブックに掲載されている甲殻類1種、昆虫類5種、魚類1種、両生

類 2 種、爬虫類 1 種が確認されています。(別表 1 参照)

外来生物では、サカマキガイが確認されています。



カジカガエルの幼生 (オタマジャクシ)



イシガメ

○水生植物

河川で見られた水草は 2 種でした。希少種は確認されず、外来種のオオカナダモが確認されました。環境省の総合対策外来種に指定され、特に生態系に悪い影響を与えることが心配されている種です。

○出雲市佐田・斐川・出雲地区の河川生物とその特徴

調査を行った佐田・斐川・出雲地区の河川は、平野部と比べて、流れが速く、水温が低い川が多いことが特徴です。そのため、溪流環境に生息する生物が多い一方で、水草が生えるような、流れの緩い場所は限られます。平成 19 年度から 20 年度に同じ地域の河川を調査しています。調査結果を比べてみると多く見られる生物については、大きな変化はありませんでした。

(注 1) レッドデータブックは、絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた資料で、環境省や各県が発行したものがあります。島根県では、平成 25 年と 26 年に改訂版のレッドデータブックが発行されています。

(注 2) 正式名称は、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」。侵略性が高く、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものから選定した外来種のリストです。

(別表1)

水生動物

| | | |
|----------|------------|-----------|
| 甲殻類 (1種) | ミナミヌマエビ | |
| 昆虫類 (5種) | アオハダトンボ | ヨコミゾドロムシ |
| | アヤスジミゾドロムシ | セマルヒメドロムシ |
| | ケスジドロムシ | |
| 魚類 (1種) | ウツセミカジカ | |
| 両生類 (2種) | トノサマガエル | カジカガエル |
| 爬虫類 (1種) | ニホンイシガメ | |